



◎ 深化・貢献期相当（経験20年以上）の読者対象

人づくりこそが村づくり

下 育 郎

「みんなで学校を創ろう！」こんなことが皆さんの住む自治体では可能でしょうか？自分自身迷いながらもこんな名称の会をスタートさせ、約2年半20回にわたり開催し、参加者は延べ600人を越えました。

行政や一部の住民の代表だけでなく、村民や保護者、そして保小中の教職員誰もが自由に参加でき、今後の村の教育や学校のあり方を考えられる、そんな会の積み上げが校舎増改修工事の設計段階に入っています。

行政が説明し、それについて納得してもらうような会ではなく、この村で育てたい子どもたちはどのような子どもたちなのか、そのための授業はどうあるべきで、そのためのスローガンは、とワークショップで何度も話し合いを重ねてきました。学校の具体像が見えにくい時には、希望する村民と共に県内の特徴のある学校視察に何度も向かいました。

小さな村だからこそ、小回りが利く良さを生かしたこの村らしい取組ができるのではないかと。大きな自治体ではできないことも、この村なら意欲のある村民同士が自由闊達に話し合い、みんなで村の将来を担う教育を共に考えていけるのではないかと考えたプロジェクトです。

話し合う中で参加者の教育観や学校観、そして授業観が変わる場面を幾度となく見てきました。様々な立場の方と教育について真剣に向き合う機会は、村民にも教職員にとっても貴重な研修の場となりました。

先生方は村民との話し合いから、個別最適な学びや単元内自由進度学習を日常的に少しずつ取り入れる工夫もしてくださるようになりました。

時には住民と子どもたちが一緒に通常の英語や体育の授業を受ける、

そんな機会も提案していただきました。

私たちの村が創りたいと願っている学校は、実は子どもたちだけが学ぶ場所ではなく、村民誰もが一緒に生涯にわたり学べる場所ではないか、という「学び」と「かかわり」の意味を考える機会もいただきました。

そのために必要な改修工事は、どうあったらよいか。今までの既存の教室という概念を崩し、固定化された一教室だけの居場所という考え方を改め、その子らしい学びや居場所の実現に向けて設計業者も村民が決め、そうした願いに沿った設計になるようみんなで関わってきました。

来年度からはよいよその工事が始まると共に、工事期間である約一年半の間、小中の子どもたちと先生方が共に中学校の校舎で生活することになります。この期間が実は新たな義務教育学校を開校する前のとても重要なベースの時間になると期待しています。

それは、子どもも大人も、自分たちの生活を話し合うことにより、新たに“創っていく”過程だからです。きめられたものや縛られるものは何もなく、この村らしい教育の実現という期待と願いがあるだけです。

ある日をもって一気に新校になるわけではなく、これから話し合われる内容であろうきまりや行事、様々な活動や課題がそのまま新校に生きる形でつながっていくものと想像できます。

義務教育学校を新たに創ることで、明治期から150年以上続く、黒板の前に教師が立ち、「一斉・一律」「揃える」「教える」ことを中心にしてきた教育活動に当村は終止符を打ち、何よりも「個」を大切にしたい教育を推進したいと願っています。学校職員は年毎に代わりますが、村民が学校創りに参加してくださっていることにより、開校当初の思いや願いは赴任されてくる先生方に常に語り継がれていくものだと思っています。

今後の信州教育を担う先生方にとって、教育のやり甲斐や学校への願いは何で、そのために今何を行っていますか。当村では「人づくりこそが村づくり」だと信じ、この村最後の学校統合に全力を注いでいます。

（栄村教育委員会 教育長）